

## 令和6年度第2回社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和7年2月3日（金）13：30～  
場 所：生涯学習総合センター研修室5・6  
出席者：委員7名、事務局6名

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 議事

### ○会津若松の魅力を生かした社会教育の推進について

前回の会議で議論した「会津若松の魅力」について、4つの分野に分類し、それぞれの項目ごとに、今後の社会教育の方向性について議論した。

#### 【委員からの主な意見】

##### ◆歴史・文化

- ・ 會津稽古堂では、多くの事業を実施しており、かつ、一つ一つがかなり魅力があるが、それが広まっていないので、市民にも県内外にももっと広まると良い。
- ・ 会津の歴史と伝統やまちづくりを、どのように発信していけばよいのかというプレゼンの仕方について、それぞれの要素の繋がりを意識した見せ方などを考えていくと良い。
- ・ 地元の人には、歴史・文化を知っているつもりでも本当は実際は知らないということもあるので、いろんな歴史や文化を紹介する講座を実施したり、歴史を専門にする文化団体と連携しながら、地元の人に地元を知ってもらうような取り組みを実施することも必要ではないか。
- ・ 漆は会津の伝統文化だが、なかなか触れる機会もないので、専門家と連携してもっと知る機会を作れたら良い。
- ・ 社会教育の魅力を発信するときに、子供から高齢者まで全ての人たちに同じ方法で魅力を発信することが、逆にその発信力をうすめてしまっていると思う。
- ・ 地元にいるから会津の良さを当たり前のように感じているが、子どもたちにその魅力を伝え、体験させて、小さいうちから会津は良いところ、すごいところだと意識づけすることで、最終的に会津に戻ってきて会津で働き起業をするというような好循環を生み出すきっかけ作りになるように魅力を発信すると良い。

##### ◆教育関係

- ・ 会津大学や会津大学短期大学部と連携して、大学の教養科目などで地域の提携講座や提供講座を開催することはできる。

- ・大学生や高校生が集まる場所が少ないので、彼らが集まれる居場所のようなところとかを作るのはどうか。例えば、以前リオンドールが入っていたビルの3階、4階が空になっているので、そこにコーディネーターを配置して、高校生や会津大学生とかが集まるカフェを作るなど。
- ・例えば小学生や中学生が会津大学に訪問して、間近で大学生から直接いろんな刺激を受け、興味を持った子どもたちが会津大学や会津大学短期大学部に進学するということになれば良い。そういうきっかけづくりのためにも、大学側はもっと地元の子どもたちに入り込み、逆に小中学校側も大学はこういうところだというように、交流がより深まれば、大学の魅力の発信にもつながる。
- ・子供同士の繋がりを深めていって、子供たちの中で話し合いをしながら、分からないところを大人がフォローするというような体制や仕組みづくりが必要である。
- ・会津大学やお城や飯盛山がなぜあるのか、というようにもっと子供たちが考えてみよう、自分たちで色々勉強しようというような道しるべとか流れを作れば、会津若松の魅力や歴史を勉強しようというような方向になっていくのではないかな。
- ・生涯学習総合センターの実施事業に参加できる人数が少ないということもあるので、参加の仕方として、申し込んで受講するのではなく、子どもたちが会津大学や会津大学短期大学部に行って気軽に学べたり、地域学校協働活動などで地域の方が学校に入って話をしたり体験をしたりすれば、社会教育の事業に参加する比率が増える。社会教育をたくさんの市民に広めて浸透させていくようにするためにはどんな方法が良いかということも考えた方がよい。
- ・遠足とか体験学習は毎年同じような行先なので、会津大学に遠足に行くなど、少し違った校外学習もよいのではないかな。
- ・例えば、児童クラブでイベントをやるとか、中高生とかが集まる場所を作って、今日はこういう企画やってるから来てみませんか、という案内を出すなど、恒常的な場を作るのは、結構宣伝効果もあるのでよいと思う。
- ・会津大学と会津大学短期大学部は小学校生や中学生を受け入れることはできると思う。
- ・大学生がリーダーを教えることを事業化してしまうこともよいと思う。保育や幼児教育は、幼稚園児や保育園児、こども園の子供が対象になりがちだが、保育は児童養護施設や放課後児童クラブを担う人材を育てるという部分もある。

#### ◆自然関係

- ・自然関係は、歴史と文化に統合できるのではないかな。例えば食は、伝統食という言葉もあり、歴史に裏付けされて食ができてきているという側面もある。また、自然についても、猪苗代湖が噴火して翁島ができたというような話もある。全部がそれぞれ繋がっていると思うので、各分野の可視化について、最後の提言の際に考えるとよい。
- ・魅力の発信という観点では、SNSのフル活用が有効だと思う。中学生や高校生はインスタグラムやXをやっているのだから、会津若松の魅力を発信するようにタイアップしたり、会津の観光大使などと連携してレポートをしながらSNSにアッ

プをして、継続的にそれを小学校や中学校の授業の中で見せるというような形が1番わかりやすいし、地元の子どもたちへの発信にもなると思う。

- ・例えば會津稽古堂魅力発信プロジェクトのようなものを組織して、そこで発信してもらうようなことはどうか。小学生部門であれば小学生部門でやっても良いし、タブレットに入れた写真などをみんなで集めて、それを投稿しようというような授業もできるかもしれない。中高生はその写真を選んで魅力を発信するということをしてもよいと思う。高校生や中学生が作って発信をするという、その経験や体験が重要であり、それ自体が教育活動になる。現在、デジタルシチズンシップ教育の重要性も言われているので、そういうことも活動に加えると良い。

#### ◆地域と人の魅力

- ・今の子供たちは会津弁が分からない。これはすごくもったいないと思う。若い子供たちに会津の良さを知ってもらうために、まず会津の言葉を伝えたい。この会津ならではの言葉をすごく大事にしていけたらよいと思うので、会津の言葉を若い子供たちにもっと発信できるような場があれば良い。
- ・会津弁を取り入れた「かるた」を子供たちと大人が一緒になって作り上げ、学校や公民館でかるた大会を実施するというようなことができると思う。
- ・大人がこれだけ会津について情熱を持っているとか、こうやって文化を支えようとしているというように伝える、それを録画して子供たちが見れるようにするような機会を作るとよいと思う。みんなで会津を作り出すストーリーや物語を作る活動の手助けを子供たちにしていくとよい。

#### ◆その他

- ・市内にはいろんな団体があるが、自分たちだけで活動して、あまり外に発信していない団体もあると思う。自分たちだけで楽しむのもよいが、いろんな人たちと関わりながら、自分たちの団体がやってることを教え合ったりするような活動も広がっていけばよいと思う。

## 4. その他

## 5. 閉会